

テーマ別研究発表 | 競技スポーツ研究部会：【課題B】競技スポーツによってどのように社会を豊かにするか

⌚ 2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 🏠 2201教室(教育研究棟 2街区 2階 2201)

[2a501-03] 競技スポーツ研究部会【課題B】口頭発表③

座長:広瀬 統一(早稲田大学)

9:00 ~ 9:20

[競技スポーツ-B-07]

福岡県タレント発掘事業からトップアスリートに至った選手におけるアスリート選抜時の要件と過去の競技経験の特徴 (コ)

*山口 真未^{1,2}、小野寺 峻一^{1,2}、萩原 正大^{1,2}、原村 未来³、山下 修平^{1,2}、友利 杏奈^{1,2}、白井 克佳^{1,2} (1. 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター、2. 国立スポーツ科学センター、3. 明治学院大学)

9:20 ~ 9:40

[競技スポーツ-B-08]

中央競技団体におけるアスリート育成パスウェイモデルの活用実態に関する研究 (経,コ)

*山下 修平^{1,2}、萩原 正大^{1,2}、小野寺 峻一^{1,2}、山口 真未^{1,2}、友利 杏奈^{1,2}、白井 克佳^{1,2} (1. 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター、2. 国立スポーツ科学センター)

9:40 ~ 10:00

[競技スポーツ-B-09]

スポーツタレント発掘育成事業からトップアスリートに到達した者の特徴 (アスリート育成パスウェイ)

体格・体力面に着目して

*萩原 正大^{1,2}、山口 真未^{1,2}、小野寺 峻一^{1,2}、原村 未来³、山下 修平^{1,2}、友利 杏奈^{1,2}、白井 克佳^{1,2} (1. 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター、2. 国立スポーツ科学センター、3. 明治学院大学)

テーマ別研究発表 | 競技スポーツ研究部会：【課題B】競技スポーツによってどのように社会を豊かにするか

⌚ 2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 🏢 2201教室(教育研究棟 2街区 2階 2201)

[2a501-03] 競技スポーツ研究部会【課題B】口頭発表③

座長:広瀬 統一(早稲田大学)

9:00 ~ 9:20

[競技スポーツ-B-07] 福岡県タレント発掘事業からトップアスリートに至った選手におけるアスリート選抜時の要件と過去の競技経験の特徴 (コ)

*山口 真未^{1,2}、小野寺 峻一^{1,2}、萩原 正大^{1,2}、原村 未来³、山下 修平^{1,2}、友利 杏奈^{1,2}、白井 克佳^{1,2} (1. 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター、2. 国立スポーツ科学センター、3. 明治学院大学)

【背景】福岡県タレント発掘事業は、国内最高峰の国民スポーツ大会への都道府県代表選手（国スポアスリート）や日本代表選手（エリートアスリート）を輩出しているものの、このようなトップアスリートがタレント発掘事業時にどのような要件で選抜されたのか、またどのような競技を経験してきたのか、検討された研究はない。そこで、アスリート選抜時の選考要件と過去の競技経験が、トップアスリートに至った競技やその到達レベル（国スポアスリート vs エリートアスリート）にどのような影響を及ぼしていたか明らかにすることを目的とした。【方法】事業参加者382名（男子182名、女子200名）の内、2024年度時点でエリートアスリートに到達した30名（男子6名、女子24名）を対象に、①発掘時の選考要件と最終的に専門化した競技種目との関連性、②小中学生期の競技経験種目と最終的に専門化した競技種目までの競技転向の傾向を検討した。【結果】国スポアスリートとエリートアスリートの選考要件は、「捕捉」（しっぽ取りゲームのテスター評価）が最多であった。一方で事業参加者全体では、「精査」（選考委員内での議論を踏まえた選抜方法）で選抜された選手が最多であった。エリートアスリートの多くは2種目以上の他競技経験を有し、男子は小中期、女子は中后期に専門化後の競技を開始する傾向であった。【考察】「捕捉」は、複数の運動能力が反映された「身体の動き」を競技関係者や指導者が総合的に評価した指標であり、選抜時の有効な指標の1つになる可能性が示唆された。「精査」は、単純に定量化される運動能力だけでは選抜されない受験者を取りこぼさない戦略であるものの、トップアスリートに至った事例は少なかった。多様な運動経験の重要性や性別による競技開始時期の違いも確認されたが、詳細については更なる研究が必要である。

テーマ別研究発表 | 競技スポーツ研究部会：【課題B】競技スポーツによってどのように社会を豊かにするか

2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 2201教室(教育研究棟 2街区 2階 2201)

[2a501-03] 競技スポーツ研究部会【課題B】口頭発表③

座長:広瀬 統一(早稲田大学)

9:20 ~ 9:40

[競技スポーツ-B-08] 中央競技団体におけるアスリート育成パスウェイモデルの活用実態に関する研究（経,コ）

*山下 修平^{1,2}、萩原 正大^{1,2}、小野寺 峻一^{1,2}、山口 真未^{1,2}、友利 杏奈^{1,2}、白井 克佳^{1,2} (1. 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター、2. 国立スポーツ科学センター)

国際競技力向上に関する施策において、中央競技団体（以下、NF）は、アスリート育成パスウェイの構築が求められている。競技ごとのアスリート育成パスウェイ（競技別パスウェイモデル）の整備は、NFにおける競技の普及とアスリートの発掘・育成・強化の取組を大局的に捉え、アスリート育成パスウェイに関わる関係者の経験・情報を体系的に可視化・言語化する上で有効であることが明らかとなっている。また、競技別パスウェイモデルの構築とその構築過程は、アスリート育成パスウェイの全体指針が可視化されアスリートとその関係者に共有できることが示唆されている。ハイパフォーマンススポーツセンター（以下、HPSC）では、競技別パスウェイモデルの構築を支援するためのワークショップ（以下、ワークショップ）が開催され、これまでに47団体の競技別パスウェイモデルが構築されている。競技別パスウェイモデルの構築が多くのNFで進む中、NFには、その共有と活用の在り方が問われる。過去には、スポーツ振興基本計画に基づき、NFが策定した競技者育成プログラムを全国各地へ展開しようとした事例において、その共有と活用が困難であったことが指摘されている。したがって、競技別パスウェイモデルを競技関係者間で共有し、活用する際にも、同様の課題が存在する可能性があり、その対応策を検討しておく必要があると考えられる。そこで本研究では、NFが策定した競技別パスウェイモデルをどのように競技関係者間で共有及び活用されるか、その計画と実態を明らかにすることで、より効果的・効率的な共有及び活用の支援策を検討する。本発表では、令和6年度にHPSCによるワークショップで策定された競技別パスウェイモデルの共有及び活用に関する調査結果を報告する。

テーマ別研究発表 | 競技スポーツ研究部会：【課題B】競技スポーツによってどのように社会を豊かにするか

📅 2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 📍 2201教室(教育研究棟 2街区 2階 2201)

[2a501-03] 競技スポーツ研究部会【課題B】口頭発表③

座長:広瀬 統一(早稲田大学)

9:40 ~ 10:00

[競技スポーツ-B-09] スポーツタレント発掘育成事業からトップアスリートに到達した者の特徴（アスリート育成パスウェイ）

体格・体力面に着目して

*萩原 正大^{1,2}、山口 真未^{1,2}、小野寺 峻一^{1,2}、原村 未来³、山下 修平^{1,2}、友利 杏奈^{1,2}、白井 克佳^{1,2} (1. 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター、2. 国立スポーツ科学センター、3. 明治学院大学)

【背景】我が国の地方公共団体や中央競技団体等によるタレント発掘・育成（talent identification and development: TID）は、アスリート育成パスウェイ（スポーツを始めてトップアスリートに至るまでの道のり）構築の一部を担っており、国際競技力向上における中長期的な戦略の一つとして位置づけられている。特に地方公共団体が主催するTID事業（地域TID）は、身体能力の選考を経て、優れた体力を有する小・中学生を対象としている。しかし、地域TIDから最終的に国際大会に日本代表として派遣された事業修了生（トップアスリート）の体格及び体力に関する知見は限られている。【目的】本研究では、地域TIDが有する体力測定データを用いて、スポーツタレント及びそこからトップアスリートに至った者とそうでない者の小中学生期における体格及び体力の特性について検討した。【方法】本研究の趣旨に賛同する地域TIDを対象に、スポーツタレントの体格と体力に関するデータを収集した。スポーツタレントの競技成績から、トップアスリートに至った者を特定し、男女別及び学年別に各種データを比較することで、スポーツタレントの体格及び体力特性について検討した。【結果と考察】スポーツタレントの体力は、同年代の一般学生よりも優れる傾向が見られたものの、トップアスリートに至った者とそうでない者との間では、その差の程度は小さい傾向にあった。つまり、本研究で対象とした地域TID（優れた体力を有する集団）においては、スポーツタレントからトップアスリートに至るための要因として、小・中学生期における体格及び体力以外の要因が関連している可能性が示唆された。